会議結果報告書

令和7年3月31日

会議の名称	令和6年度 第3回舞鶴市文化財保護審議会
種別	☒ 附属機関 ☐ 懇話会等
開催日時	令和7年3月18日(火) 13時30分～15時15分
開催場所	市役所6階大会議室
出席者	<委員> 加藤委員、一瀬委員、坂根委員、森島委員、日向委員、池田委員、廣瀬委員、吉岡委員 <事務局> 鴨田市長他6名
議題	1 あいさつ 2 令和6年度文化財指定答申文協議 「木造 阿弥陀如来坐像」答申文について 「木造 毘沙門天立像」答申文について 「桂林寺本堂障壁画 鈴木南嶺筆」答申文について 3 令和6年度文化財指定答
公開の区分	☒ 公開 ☐ 部分公開
傍聴者数	2名
審議結果 及び 主な意見等	会議録のとおり
会議録の作成様式	☐ 詳細 ☒ 要約
備考	
担当課	舞鶴市 生涯学習部 文化振興課 TEL (0773) 66 - 1019

令和6年度舞鶴市文化財保護審議会会議録

日 時:令和7年3月18日(火)13:30~15:15

場 所:市役所別館6階 大会議室

出 席:(委員)加藤会長、一瀬委員、坂根委員、森島委員、日向委員、池田委員、廣瀬委員、
松尾委員、吉岡委員

(事務局)鴨田市長、福田部長、三方次長、松本担当課長、佐藤、矢内、尾崎

欠 席:伊庭委員、上杉委員、並木委員

会議内容:

1. 福田部長開会挨拶

2. 令和6年度文化財指定答申文協議

(1)「木造 阿弥陀如来坐像」答申文について

(委員からの主な意見)

- 答申文案4行目の「如来相」について、「如来形」の方が適切ではないか。
⇒調査を行った先生の表現を優先し、「如来相」のままとする。
- 答申文案4行目の「褊袒」について、「偏袒」の方が適切ではないか。
⇒調査を行った先生の表現を優先し、「褊袒」のままとする。
- 答申文案4行目「布端」について、「衣端」の方が適切ではないか。
⇒ご指摘のとおり「衣端」に修正する。
- 答申文案2行目「近隣から移座された」とあるが、前回の答申文案で「北方から」となっていたように、近くではなく遠い北方からという可能性は無いのか。
⇒地元の方のお話でも、すぐ近く(方角でいうと北)からと言われていたので「近隣から」で問題ないを考える。

(2)「木造 毘沙門天立像」答申文について

(委員からの主な意見)

- 答申文案2行目~3行目「現在地に堂を建立の上移座したとの伝がある」とあるが、収めるために建立したということで間違いはないのか。元々あったお堂に移座したものではないのか。
⇒明確には分からないため、明記しないものとする。
- 答申文案1~3行目と11行目からの内容が重複している。
⇒1~3行目を所在地の表現のみに修正する。

(3)「桂林寺障壁画 鈴木南嶺筆」答申文について

(委員会からの主な意見)

- 答申文案8行目「黒墨」について、「濃墨」の方が適切ではないか。
⇒「濃墨」に修正する。
- 答申文案8行目「辛抱強く塗り」について、「丹念に描き」の方が適切ではないか。
⇒「丹念に描き」に修正する。

- 答申文案10行目「虎は前足を前景の平地にしっかりと踏みつけ」について、「地面を」とした方が情景を表すのに適切ではないか。「前足」だけではないのではないか。
⇒「虎の四肢は前景の地面をしっかりと踏みつけ」に修正する。
- 答申文案11行目「松葉や草」について、「松葉や笹」の方が適切ではないか。
⇒「松葉や笹」に修正する。
- 答申文案最終行「初期の代表作」とあるが、どのくらいの期間御用絵師であったのかが分かるように、どこかに生没年を入れてはどうか。
⇒答申文案3行目「鈴木南嶺」の後に生没年「(1774～1844)」を追記する。

3. 令和6年度文化財指定答申

上記3件について、文化財指定を相当とする旨、加藤会長から鴨田市長あて答申を行った。

以上